



きくがわ 社協だより

No.90
2012年
8月発行

ホームページ <http://www.kiku-syakyou.or.jp/>

特集

社協(社会福祉協議会)は、みなさんと共に
「安心していきいき暮らせるまち」を考え、推進する民間団体です。

「災害ボランティア支援本部」に求められるもの



▲ボランティアの受付



▲ボランティア出発前の説明

大規模な災害が発生した場合、菊川市社会福祉協議会は菊川災害ボランティアコーディネーター(菊ボコ)と協働して、「災害ボランティア支援本部」を立ち上げ、県内外から駆けつけてくださったボランティアのみなさんを、各ニーズに合わせて派遣します。

毎年、各関係団体や学生のみなさんにご協力をいただき、震度6強の震災を想定した「災害ボランティア支援本部立ち上げ訓練」を実施しています。訓練9年目となる今年は8月25日(土)に実施します。情報の共有化、連携を意識して訓練にあたりたいと思います。ぜひご参加ください。

社会福祉法人 菊川市社会福祉協議会
〒439-0019 静岡県菊川市半済1865(プラザけやき内)

☎(0537)35-3724 Fax(0537)35-3202
Eメール info@kiku-syakyou.or.jp

「災害に備えて必要なこと、求められることは」

東日本大震災後、岩手県山田町災害ボランティアセンターに、社協職員として運営支援に入った時のようすを聞かせてください。

橋本 発災から3ヵ月後の6月に行きました。山田町社会福祉協議会の建物は、遺体安置所として使われている等のため、災害ボランティアセンターとしては使用できず、3km程離れた山の上のB&G海洋センターに災害ボランティアセンターが開所するまでには、場所の選定にも困難を有し、1ヶ月以上かかったと聞いています。菊川市では発災3日後に、プラザけやきに立ち上げる計画で毎年訓練をしています。実際はどのような状況になるのだろうかと不安もあります。また、発災後はどれだけの社協職員が無事であるか分からないので、部署や職種に関係なく災害ボランティア支援本部の運営に携わっていく必要があると思っています。

菊川市災害ボランティア支援本部立ち上げ訓練の運営、そして山田町での災害ボランティア活動を体験されている「菊ボコ」伊藤さん、いかがですか？

伊藤 菊ボコに入って3年目です。山田町でボランティアをさせていただいたことで、今年の立ち上げ訓練は特別な感じがしています。震災後3ヵ月でしたので、運営に慣れていたようすで、ボランティアに対する指示なども問題ありませんでした。これを菊川市に置き換えると、実際どのようにボランティアを派遣するのか、特に立ち上げてすぐの運営には不安を感じます。山田町には道員も揃っていて、こういう時には何と何が必要というようなマニュアルがありました。現在、菊ボコのスタッフは35名いますが、実際に駆けつけられるのは数人ではないかと思っています。

「BRNきくがわ」として考える災害時の課題を井伊谷さんから話したただけですか？

井伊谷 現在の会員は44名で、バイクを持っている人



菊ボコ 伊藤幸次さん

も持っていない人もいます。災害時は自転車でも活動できるため、二ノズを集めるためには、とにかく数多くの人がいれば対応できると思います。それから、各地で災害本部立ち上げのマニュアルはできているのですが、マニアルを図にしたものを張り付けることはできないかもしれない。それでも、誰かがリーダーとなりリードできれば運営の流れができていくのではないかと思います。



BRNきくがわ 井伊谷藤雄さん

住民支援を考えた時の課題や意見を、民生委員児童委員 西澤さんからお話をいただけますか？

西澤 平成19年から福祉課を中心に、災害時要援護者支援計画の取り組みをしています。まず台帳作成の承諾の同意をもらい、同意が得られたら自治会の自主防災会へ公表します。その場合、個人情報問題がひっかかっています。生命財産に関わる問題は、個人情報から外れるべきと思いますが、災害が起こる前段なので、本人の同意をとらないとできません。個人情報問題で自治会や自主防災会との連携がなかなか思うようにいかない場合もあります。「災害時一人も見逃さない運動」を民生委員児童委員のスローガンとして活動していますが、民生委員児童委員だけではどうにもならない。東日本大震災では56名の民生委員児童委員が亡くなっています。お年寄りの手を引きながら津波に飲み込まれていったという現実もあるわけです。民生委員児童委員も自分の家、隣近所、地域の順で段階的に動かざるを得ないと思います。福祉課、安全課、社協、地域のボランティア団体のみならずなど関わって協力的体制をとっていくのが今後の課題だと思っています。

協力体制、連携の部分で福祉課 鈴木課長からお話をいただけますか？

鈴木 災害時は行政が災害対策本部を立ち上げて出動体制を整えますが、一番困るのが、情報収集や情報の整理ができず、被災のようすがなかなか伝わってこないことです。情報収集と情報整理が災害対応では一番肝心なことだと思います。自治会の自主防災会と行政の対策本部を繋ぐ無線通信などが整備されない、災害ボランティア支援本部で二ノズを収集するにも不安が

あるだろうと思います。流れてくる情報として、駿河湾沖地震の時に安全課も苦慮していたことは、同じ情報複数挙げられてきて、電話だけでは確認のしようがないことです。情報を発信する側と受け取る側が、お互いに情報を整理できるような体制を取っておかないと非常に困ってしまいます。自主防災会からしか情報が挙がってこないという流れができていけばよいのですが、市民の何人もの方たちから情報をいただくと、それが同じ場所できていることなのか現時点では把握できません。個人的には、災害対策本部に集まった二ノズを整理し、ボランティアの要請が必要だという情報を災害ボランティア支援本部にどう流していくかが大切なことなのだろうと思います。それぞれの本部に挙がってきた情報が、違うものなのか同じものなのかを確認することも必要です。例えば自治会からの情報は安全課が収集する。民生委員児童委員さんからの情報は社協に集めようというような情報整理を災害が起こる前に決めておいた方がよいと思います。

これまでのみなさんからの話を聞いて、安全課 中野さんのご意見をお話いただけますか？

中野 平成7年の阪神淡路大震災の時には、派遣という形で被災地に行かせてもらいました。水害と震災とは違いがあり、その時の災害によつてマニュアルどおりにはいかないというのがありますので、みなさんそれぞれがやらなくてはならないことを認識していただきたいと思っています。福祉課長が言ったように、二ノズの情報収集がかなりの量になると思います。自治会自主防災会にあつては、地区センターが拠点となり、災害対策本部へ情報を挙げてもらう流れになっています。自主防災会にもそのお願いをしています。今年、全世帯に安全確認のための黄色い旗を配布しました。震度5弱以上の地震があった時に被害がなければ旗を出して、旗が出ている家へは自主防災会や民生委員児童委員さんに行っていたかどうかのお願いをしています。そのことで情報収集についても時間を費やさず、自主防災会という名のとおり、自分の命は自分で守る、自分たちの地域はみんなで守ることを認識していただいて、行動することをお願いしたいと思っています。



安全課 中野晴之さん

す。また、情報を統一する必要があると思いますので、災害対策本部に挙がってきた情報を災害ボランティア支援本部と共有する流れや情報網をしっかりとつくりたいと思います。

情報共有、連携という部分で、災害ボランティア支援本部としてどうですか？

橋本 災害ボランティア支援本部運営の中でも求められるものだと思います。市と社協の災害対策本部同志や各地区センターから行政へ、各地区から社協へというような、いろいろなニーズの挙がり方があると思います。市と社協相互の災害対策本部との連絡調整については、連絡員が1名つくというのが防災計画に入っているの、具体的な形を訓練で出来ればと思います。ニーズの収集については、ボランティアを派遣する前にスタッフが見に行つて確認をします。その際に、近隣にも同じようなニーズがあるかもしれない場合はローラー作戦をかけてのニーズ調査が必要となります。ニーズが挙がってくる地域と、必要があっても挙がっていない地域があると思います。地図に落とすと空白となっている地域が分かるので、そこを確認してニーズを収集していかなくてはならない。実際にニーズがあっても挙がっていない地域が相当数あるかもしれないというのを気にかけていなくてはならないと思います。

ボランティアを派遣する際の災害ボランティア支援本部との連携についてはどうでしょうか？

鈴木 駿河湾沖地震の時は、災害対策本部にいろいろな部署の職員が集められて、罹災状況の確認作業から始めました。そこが第一に必要です。災害救助法の適用を受けるためにも、まず市内の被災状況を把握しなくてはなりません。市内全地域に全ての職員が派遣され、どれだけの被害があったかの情報を集めるのが第一番目の作業となります。それが災害対策本部に集まり、そこから情報の整理をしていく。これは行政、これはボランティアとニーズを分けるのは難しいので、ある程度の線を決めておかないと困るのでは。また、それを判断する人も役割として必要なのだと思います。災害対策本部で役割分担を決めて



福祉課長 鈴木 勝さん

おかないと、災害ボランティア支援本部が立ち上がっても機能しないことになってしまつのではないのでしょうか。

これまでにいくつか課題が出されましたが、課題に備えて取り組みたいことをお話しいただけますか？

伊藤 まず地域が第一だと思う。近所が無事であれば災害ボランティア支援本部に駆けつけたと思います。

橋本 菊本さんから話が出ましたが、災害ボランティア支援本部をいかにスピーディーに立ち上げるか、どれだけ菊本のメンバーが集まれるかということだと思っています。また、災害ボランティア支援本部の立地場所はブラザケやきのため、南部と距離があるのが課題であり、サテライト的なものを作るのかなどを考えた時にも人が少ないと感じていますので、災害ボランティアコーディネーターや菊本のメンバーが増えるよう考えていきたいと思っています。

井伊谷 フローチャート図をまず作り、ボランティアコーディネーターが集まって来た時に、誰がここに就くというような役割分担をするのがよいと思います。フローチャートで流れをつくっておくとスムーズではないかと思っています。運営の流れとなる基があれば、リーダーシップをとる人はいるので回っていくと思います。**西澤** 社協としては災害ボランティア支援本部を立ち上げてボランティアを派遣する訓練を、行政としては自主防災会を中心に訓練などを行っているのが現状だと思っていますが、一度大がかりに災害対策本部と災害ボランティア支援本部を立ち上げて、広域的な防災訓練をやってみたらどうかと思います。フローチャート図もつくって、対策本部長もあって、各自自主防災会で被害想定を作り、情報を挙げて情報のやりとりをする、ニーズ収集と整理を行い、菊川市民全ての大々的な訓練をする。そういう大規模訓練をやる時期がきていると思います。また、災害弱者への支援をどうするのか。福祉避難所のなかみも決めていかななくてはならない。そうしないと、右往左往してしまふ。災害弱者支援を含めて、相当な数を集めて一斉に訓練をしてみる中で、どこが悪いのかと工夫や改善することが見えてくるのではないかと思います。

鈴木 実際に経験した災害、大型台風も駿河湾沖地震



社会福祉協議会 橋本考巧さん

も東日本大震災も、参考になることはたくさんあると思います。大規模災害の時には、外からの支援を受け入れなければ物資を入手することも配ることもできないという状況が想定できます。情報収集のことも、課題があるということもわかって、解決する手段に至っていない現状があります。駿河湾沖地震の時には一軒ずつ歩きました。ローラー作戦で歩いてお宅に入らないと状況はわかりません。限られた地域だけを回るのにも相当数の職員が数日間かけて歩きました。それが1万世帯に上るような大規模災害を想像すると、まずは地域住民のボランティア活動が、発災直後には大切であり必要になると思います。

中野 課長が言ったように、課題は多いが起こり得る災害ということで、今までの経験で分かることもあるので、それを今後に生かしていきたいと思っています。また、西澤会長が言ったように、全体での防災訓練も必要だと思っています。訓練の際に市からお願ひしたいのは情報収集です。地区の情報を地区センターに挙げて、それを地区センターに行く市の職員がまとめて本部に挙げるということ。今、西方地区、河城地区、内田地区、平川地区が地区全体で訓練をやつてくださったと思います。地区全体で訓練をすれば情報共有もできるので、ぜひやっていただけたらと思います。

西澤 昼間に地震がきたら、地域には高齢者しかいません。自主防災会が立ち上がるまでに、その人たちがどうやっていくのかを考えておかななくてはならない。マニュアルやフローチャートをつくっておくのがよい。先ほど話があったように、発災してボランティアが入るまでの間をどうするかを考えておく必要があると思います。

橋本 地元人がいないという話ですが、災害ボランティア支援本部立ち上げ訓練の時に中高生が運営ボランティアとして参加しています。いざという時に中高生の力は必要なので、今年も教育委員会を通じてボランティアのお願いをしています。

井伊谷 地域の自主防災訓練の時に、中高生がとても協力的で、参加意識が高かったです。若い人たちが取り込んでいかないとけないと思います。



民生委員児童委員協議会会長 西澤 桂さん

笑顔、輝いてます —第13回—

● 『頼りになるね! 菊川災害ボランティアコーディネーター!!』 ●

Q. 菊ボコの活動について教えてください。

A. 平成12年に設立し、社協の訓練には9回目になります。菊川災害ボランティアコーディネーターを略して『菊ボコ』と言っています。現在35名の会員が所属し、公務員、会社員、福祉施設職員やケアマネジャー、地域サポーター、民生委員児童委員、元民生委員児童委員、元自衛官、元警察官、元教員など様々です。年齢も40代から70代後半で健康者や障がい者の男女の構成になっています。

活動としては、地震その他の災害時を想定して、社協と協働で8月に「大規模災害被災時対応訓練」を実施し「災害ボランティア支援本部」を立ち上げ、県内外の災害ボランティアを受け入れ、被災要支援者にボランティアをコーディネートするための情報収集等の訓練を各種団体、市民の皆さんの参加協力を得て実施しています。

東日本大震災の際には、社協に協力し被災地支援のボランティアを募集し、会員の一部も被災地に赴き活動しました。

県ボランティア研究集会、県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練、他市との交流会などへ参加し、災害時への備えや要支援者への確にボランティアをコーディネートすることが出来るように図っています。

Q. 新田さんがボランティアを始めたきっかけは何ですか？

A. 民生委員児童委員をしていた頃、身体不自由な一人暮らし高齢者や母子家庭家族と関わった時、この人たちが災害時に助けを必要とした時に的確に支援できるか常に気がかりでした。そんな中「プラザけやき」での災害時を想定した訓練に参加し、『菊ボコ』の活動を身近に知ったのが入会のきっかけでした。

Q. 活動をする中で感じることや思うことは何ですか？

A. 『菊ボコ』の運営や活動は、35名の広い視野と深い場に立って行う事が出来ると感じます。日頃の災害に対する備えや災害時に必要な情報収集と要支援者へのボランティア派遣に会の持つネットワークが活かされると思います。

菊川市の中でも小笠南小では津波災害を想定した避難訓練を実施しています。他の交流会の時に津波の訓練はやらないのか聞かれました。菊川市でも場所によってニーズが違ってくるので必要性に応じた訓練を行ってほしいと思います。

Q. これからの抱負やみなさんへのメッセージをお願いします。

A. 福祉懇談会やふれあい広場等いろいろな場を通して『菊ボコ』の活動を知っていただき、災害への備えや災害時の支援について皆さんと共に日頃から考えていくようにしたいです。また、『菊ボコ』に関心を持っていただき、多くの皆さんにぜひ入会をしていただきたいと思います。

会合も常に楽しくやれるように心掛けています。

災害時困らないように次の事が大切だと言われています。

「近助(きんじょ)」…いざという時は隣近所が助け合えるように、日頃からのお付き合い(コミュニケーション)が大事です。

「備え」…災害時への助け合いの備えは挨拶から始まります。普段から仲良くしておくことが必要です。

災害時近所に支援を必要とする人を見たら、支援機関に素早い通報をしてください。そして『菊ボコ』へも情報をお願いします。

『菊ボコ』会員募集中です。興味、関心のある方はぜひご連絡をお願いします。
連絡先 ☎35-4589



にったともみ

新田具美さん(白岩東)

施設や団体の紹介コーナー

東遠学園組合

「東遠学園って、西方にある知的障がいの子が入所する施設でしょ。そういえば、学校もあったよね・・・」はい、だいたい正解ですが、この間、障がい児福祉や障がい児教育が大きく変わる中で、現在は乳幼児期から学齢期、そして青年期まで、幅広い支援や相談業務を行っています。

□乳幼児期：「めばえ」「みなみめばえ」「すぷら」の3か所の事業所で、障がいの早期発見からさまざまな療育を、市の保健師さんやこどもみらい課、医療機関などと連携しながら進めています。

□学齢期：東遠学園児童部が、元々の東遠学園のはじまりです。現在は特別支援学校が整備され、多くの子どもは自宅から通学しています。現在入所しているのは、家庭の事情等による子どもがほとんどです。

□青年期：東遠学園青年部は、児童期から成人期への移行期の方たちが、安定した青年期を獲得するために、作業や余暇の充実のために生活しています。

□在宅支援：障がい児・者福祉は、入所型福祉から地域・在宅型福祉に大きく変わりました。冠婚葬祭や家族の病気等で一時的にお預かりしたり、余暇支援として公共交通機関を使ってお出掛けする等、家庭で暮らす障がい児の発達支援や子育て支援を充実させています。

さて、多様な事業をしている中で、もっとも大事なことは「命をお預かりしている」ということです。

昨年の東日本大震災以降、防災計画や災害マニュアルの見直しを進めており、先月は、児童部・青年部において夜間の防災訓練を緊張感の中で実施しました。「災害は忘れたころにやってくる」と言いますが、「忘れない(繰り返し)の災害対策」を継続しなければと強く感じています。

東遠学園組合 東遠学園長 大石明利

夜間防災訓練の様子です。
「落ち着いて、避難できたかな」



障がい当事者のみなさんから報告を聞きました

6月16日、「ボランティアバスパック3報告会」を行い、民生委員児童委員のみなさんや、ボランティア団体、福祉団体のみなさんなど、およそ50名の方にご参加いただきました。

今年3月に、身体障害者福祉会、ろうあ部、手をつなぐ育成会、Mネット東遠のみなさんが岩手県宮古市へ行き、宮古市の障がい当事者のみなさんと、災害に関する情報交換や意見交換を行った時の報告です。



被災地を実際に見た感想や、被災された障がい当事者のみなさんから聞いた震災のようすや震災時のアドバイス、そのアドバイスを基に、自分たちの団体が取り組み始めた防災対策などのお話がありました。

参加者からは、「障がい者自身の生の声が聞けてよかった。」「災害時に、障がい者や高齢者や幼児たちを守る手段・方法等を再度検討することが必要だと感じた。」などの感想をいただきました。

堀之内サロンが開催されました

西方地区内堀之内自治会において、地域サポーターが開催する高齢者サロンが開催されました。当日は高齢者20名の参加をいただき、演奏ボランティアによるハーモニカの演奏、市の保健師さんの講話、参加者手づくりのゲーム等で楽しい時間を過ごしました。

参加者からは「楽しかった。」「久しぶりに話が出来た方がいる。」「また開催してほしい。」とうれしい言葉をいただきました。



「お宅に訪問」の際の傾聴力養成講座を開催しました

ホールファミリーケア協会理事長鈴木絹栄氏を講師に迎え、日頃お宅に訪問して高齢者等の話を聴く機会のあるボランティア、民生委員児童委員、地域サポーター等にご参加いただき、開催しました。午前中は傾聴の基本や意義の講義、午後は実際に聴き手・話し手の体験をし、どのような聴き方が好ましいのかを学びました。

参加者からは「活動を始める当初に聴くことが出来ればよかった。」「これからの活動に是非活かしたい。」等の感想をいただきました。



ボランティアの広場

ボランティアの輪・和・話(三つのわ)



「菊川市赤十字奉仕団」

私たちのグループでは、現在112名の団員が所属し、菊川市内の特別養護老人ホームやデイサービスセンターでの活動(おむつたたみ、お話相手、入浴後のサポート等)や施設のイベントでのお手伝いを、各施設で月1回～2回当番制で行っています。また毎年一回行われている「災害ボランティア支援本部立ち上げ訓練」にも参加し、主として炊き出しのコーナーの運営を担当しています。

ボランティア活動に興味のある方は、是非お仲間になってください。

問合せ先 ボランティアセンター ☎35-6385



「ボランティアグループからご案内～要約筆記たんぽぽ～」聞こえのサポート講座

聞こえに不自由している方、ご家族が聞こえに困っている方、聞こえにくい方との接し方に関心のある方など、是非ご参加ください。

開催日 9月23日、30日、10月14日(全て日曜日・全3回)

時 間 10:00～15:00

会 場 掛川市総合福祉センター(あいりーな)

参加費 無料(但しテキスト代のみ700円)

定 員 50人(先着順:全回受講可能者優先)

内 容 聞こえない・聞こえにくい方とのコミュニケーション手段、福祉サービス、補聴器の利用の仕方 等

問合せ・申込み先 9月10日(月)までに沖野好子(☎0537-24-2262)まで。

その他 この講座は特定非営利活動法人静岡県中途失聴・難聴者協会が静岡県から委託を受けて行います。

「活動奨励賞を受賞しました」

静岡県社会福祉協議会主催の平成24年度ふれあい基金NPO・ボランティアグループ等活動奨励事業の贈呈式が行われ、下記グループが活動奨励賞を受賞しました。今後のより一層のご活躍を期待します。

受賞グループ **おんがくの広場**

ボランティアミニ知識～ボランティアの原則：先駆性・開拓性・創造性とは～

「よりよい社会・地域をつくるために」何が必要なのか、そして改善のためにはどうすればよいかを考え、従来の考え方にとらわれることなく、自由な発想やアイデアを大切にしながら、方法やしくみを考え、作りだしていくこと。

求むボランティアさん

問合せ先

ボランティアセンター ☎35-6385

～施設でのボランティア～

障害者支援施設 清松園「外出支援」

活動内容 利用者の買い物時等、外出支援

活動日時 不定期(外出時)

募集対象 一般、学生(大学生・専門学校生)

和松会デイサービスセンター

活動内容 レクリエーション活動の支援等

活動日時 月曜日から土曜日

10:00～12:00 13:30～15:30

募集対象 一般、学生(小学生4年生以上)

ご利用ください～菊川市社会福祉協議会ボランティアセンター土日開所～

9月のボランティアセンター土日開所日は、8日(土)、16日(日)です。

ボランティア相談 月～金曜日 8:15～17:00 プラザけやき ☎36-6385

参加者募集 各種事業

ボランティア講演会 & 情報交換会 参加者募集

現在ボランティア活動に参加している方も、これから始めようという方も、活動・グループを超えたボランティアの仲間と知り合い、ボランティアの輪を広めませんか？

- 主 催** 菊川市社会福祉協議会ボランティアセンター
菊川市ボランティア連絡協議会「ゆう&あい菊川」
- 日 時** 平成24年9月30日（日） 13：30～16：30
- 会 場** プラザけやき 集団検診ホール
- 内 容** ①講演会「老化を老華にするためのボランティア」
～ボランティア活動と老化防止！一石二鳥のボランティア効果～
講師 西尾正行氏（森町病院、日本抗加齢学会認定指導士）
②情報交換会テーマ「知ろう！菊川市のボランティア」
- 対 象 者** ボランティア連絡協議会「ゆう&あい菊川」会員
ボランティアセンター登録ボランティアグループ会員
個人登録ボランティア 地域サポーター
ボランティア活動に興味・関心のある方 等

参 加 費 無料

問合せ・申込先 菊川市社会福祉協議会 ☎35-3724 FAX35-3202

※9月11日（火）までにお申し込みください。

ただし講演会のみ参加希望の方は9月24日（月）まで申込可能です。

菊川市をきれいにしよう作戦Part1 参加者募集

- 主 催** 菊川市教育委員会ボランティア活動支援センター
菊川市社会福祉協議会ボランティアセンター
- 日 時** 平成24年9月23日（日） 13：30～15：30
- 会 場** プラザけやき
- 対 象 者** 前期ボランティア活動体験に参加した児童生徒
- 参 加 費** 無料
- 内 容** “おたのしみ企画”「光陽荘」のバンドグループ“ドロップス”の演奏
第一部 活動を振り返ろう！（あなたの写真はあかな？）
「ボランティア活動体験を終えたあなたへ」
受け入れ先代表 和松園園長 板倉幸夫氏
第二部 菊川市をきれいにしよう作戦Part1
～地域の方と一緒にボランティアに参加しよう～

問合せ・申込先 9月14日（金）までに菊川市教育委員会社会教育課（☎73-1114）または菊川市社会福祉協議会（☎35-3724）へお申し込みください。

ふれあい広場「赤ちゃんはいはい」 参加者募集

0歳の思い出にぜひご参加ください。みなさまのご応募をお待ちしております。

- 日 時** 平成24年10月27日（土）
11:00～11:30（集合10:30）
- 会 場** 菊川市民総合体育館
- 対 象** 菊川市在住で、開催当日に1才未満の乳児 先着20名
- 申込受付** 9月3日（月）より受付開始
- 問合せ・申込先** 菊川市社会福祉協議会 地域福祉係 石川 ☎35-3724 FAX35-3202

相談窓口

福祉総合相談

- 日時** 月～金曜日
8：15～17：00
- 会場** プラザけやき

心配ごと相談

- 日時** 9月 3日（月） 9：00～12：00
9月18日（火） 13：00～16：00
- 会場** プラザけやき
- 日時** 9月 5日（水） 13：00～16：00
9月20日（木） 9：00～12：00
- 会場** 菊川市役所 小笠支所

結婚相談

- 日時** 9月 6日（木） 18：00～21：00
（受付20：00まで）※女性のための相談日
9月16日（日） 9：00～12：00
（受付11：00まで）
- 会場** プラザけやき
※初めてのの方は写真と印鑑をご持参ください。